

氏 名	MA YANYAN
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	文学
学位授与番号	博甲第 7519 号
学位授与の日付	令和 8 年 3 月 25 日
学位授与の要件	社会文化学研究科 社会文化学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)
学位論文の題目	『唐詩選』収録作品の主題 —その特徴と江戸文芸に与えた影響を中心に—
論文審査委員	教授 遊佐 徹 (主査) 准教授 橘 英範 教授 山本 秀樹 准教授 藤原 祐子 准教授 太田 亨

学位論文内容の要旨

学位申請者 馬 艶 艶

学位論文題目

『唐詩選』収録作品の主題—その特徴と江戸文芸に与えた影響を中心に—

2 部構成、全 9 章からなる本論文は、明代に編まれたとされる唐詩選集『唐詩選』が、江戸時代の日本において入門書・手本として長期にわたり広く読まれた理由を明らかにするとともにそれが日本文学および文化にどのような影響を及ぼしたのかの解明を目指すものである。その手法として『唐詩選』の収録作品に見られる主題の特徴に注目した点に同種の研究にはないオリジナリティを主張できる。

具体的な論文構成は以下の通りである。

第 1 部は、『唐詩選』収録作品を対象に主題を分類し、各主題の収録状況を統計的に示す。第 1 章では『唐詩三百首』、第 2 章では『三体詩』、第 3 章では『古文真宝』をそれぞれ比較の対象に選び、『唐詩選』の特徴を客観的に明らかにすることを目指した。分析にあたっては、『唐詩選』(465 首)、『唐詩三百首』(321 首)、『三体詩』(494 首)、『古文真宝』(唐詩 120 首)の収録作品を、詩体・詩題・詩人・作成時期・詩句・主題の六項目に分けてデータベース化し、先行研究で指摘されてきた特徴を数量的に検証する。主題の分類には『唐詩類苑』を参照基準として用い、主観的判断をできる限り排した。分析の結果、『唐詩選』は盛唐詩を中心とし、今体詩、とくに絶句の割合が高いことが確認された。短い絶句が多い点は、和歌や俳句といった日本の短詩形との親和性が高く、日本における学習や受容のしやすさと関係していた可能性がある。また主題面では、『唐詩三百首』との比較において、送別詩の収録数には大きな差が見られなかった一方、懷古詩や閨怨詩は『唐詩選』の方が少ないことが明らかとなり、また『三体詩』『古文真宝』との比較では、『唐詩選』に辺塞詩・送別詩・閨怨詩が相対的に多く収められていることが確認されるという発見があった。

第 2 部は、第 1 部で明らかにした詩体・詩人・主題の特徴が、江戸時代の漢詩文化や文芸作品の中

でどのように受容され、どのような影響を及ぼしたのかを具体例にもとづいて検討する。

第4章では、徂徠学派に注目し、服部南郭『南郭先生文集』初篇を取り上げ、詩体配列や詩題・主題の対応関係から、『唐詩選』が作詩の手本として体系的に参照されていたことを示した。第5章では、反古文辞派について、山本北山『作詩志穀』の詩論を中心に、『唐詩選』を絶対的な規範としない批判的態度がどのように形成されたのかを整理した。第6章では、市河寛斎『寛斎摘草』を分析し、形式面では一定の影響を受けつつも、詩体比率や詩題・主題の水準では『唐詩選』から距離を取る受容のあり方を明らかにした。第7章および第8章では、『通詩選三部作』『唐詩笑』『異素六帖』『唐詩三物』などの江戸文芸作品を対象に、『唐詩選』収録詩のうち、どの主題の作品がパロディの対象となったのかを検討した。その結果、辺塞詩・送別詩・閨怨詩、ならびに絶句を中心とする短詩形が、通俗化の場面でも好んで用いられていたことを確認した。

第9章は、全体のまとめと展望である。

本研究は、主題構成という特徴に着目し、数量的分析と具体的事例研究を組み合わせることで、『唐詩選』流行の背景を立体的に捉え、唐詩選集研究および受容史研究に新たな視点を提示するものである。

論文審査結果の要旨

被審査者の馬君は、上海の同済大学外国語学部卒業後、2015 年に岡山大学プレマスターコースに入学し、2017 年 10 月に大学院社会文化科学研究科博士前期課程に入学し、出産、育児のための 2 年間の休学を経て、修士学位を取得ののち、2022 年 4 月から博士後期課程に在籍する学生です。ご家族のこともあり、これまで基本的に愛媛県松山市に居住しながら勉学に励んできました。J-SPRING（次世代研究者挑戦的研究プログラム 旧、OU フェローシップ）にも採用されたことがあり、研究の方向性に対して全学からも期待が寄せられています。また現在、松山大学の中国語非常勤講師も勤めています。

全 9 章で構成された学位請求論文に対する審査会は 2 月 6 日 15 : 00 より文法経 1 号館 103 号室で開催されました。審査員は以下のとおりです。

遊 佐 徹	教授	社会文化科学研究科	主査・指導教員	中国近現代文学
橘 英 範	准教授	社会文化科学研究科	副指導教員	中国古典文学
山本 秀樹	教授	社会文化科学研究科	副指導教員	日本近世文学
藤原 祐子	准教授	学術研究院共通教育・グローバル領域	専門分野に関係の 深い学術領域の教員	中国古典文学
太 田 亨	准教授	広島大学大学院人間社会科学研究科	学外の専門家	比較日本文化学

審査会の冒頭で、被審査者から、本論文の目的、意義、特徴について、簡単な説明があったのち、5 名の審査員からの質疑応答を中心に審査は進みました。

『唐詩選』流行の理由を他の唐詩選集と比較して見出すことを目指した第 1 部については、複数の審査員より文学作品に対し科学的分析を施し、定量研究として客観的な研究結果を示し得た点を評価する意見がありました。被審査者は、大学院入学後、本学が参加する JSPS の卓越大学院プログラム——人文社会学系の学生にデータサイエンスの技能の習得を促し新たな人文知の創出を目指すプログラム——に所属する学生で、この第 1 部で用いた手法は、そのプログラムで身に着けたものです。この手法を用いたことにより、従来、研究者により感覚的に主張されてきた『唐詩選』の特徴を客観的に検討し、明確な結論を示した点は、本論文の成果の大きな柱となるものです。その一方、データ収集と分析対象が詩の形式や主題に止まり、内容にまで踏み込むところが乏しい点、データ分類の基準とした『唐詩類苑』に対する批判的評価を行っていない点については疑問が呈せられました。

第 2 部は、第 1 部で実施した分析の結果を江戸の漢詩人、文人や江戸文芸における実際の『唐詩選』の受容状況において検証する内容となっていますが、その対象が限定的で、また予備論文の段階とは異なる形で選定されていたことが問題とされました。第 2 部は、その内容上、日本近世文学研究、日中比較文学研究を専門とする審査員の評価を主に受ける部分となりましたが、先行研究の選び方、先行研究の扱い方、解説や事典記述の安易な利用や多用等について指摘、指導があったほか、使用テキストについての注意、テキストの理解についての注意等がありました。

さらに全体として、叙述における体裁や字体の不統一、繰り返しの多さ、挙例の有効性等について

も指摘を受けました

以上のように完成度の面において一定程度の問題点もある論文ですが、人文科学研究のテキスト分析にデータサイエンス的手法を導入し、地道に作業を進めた結果、日本における『唐詩選』流行現象に関して新しい知見を提示するに至ったところを評価し、合議の結果、学位授与に相当するとの結論に達しました。

なお、本学位請求論文以外の研究成果としては、公表論文が 5 編（うち査読付き論文が 2 編）、公表予定の論文が 1 編（刊行決定済み）あります。また研究発表も熱心に行っており 日本中国学会での発表を始め、国内、国外で多数の実績があります。

学位に付す専門分野は「文学」でお願いいたします。